

講義年月日	2003年1月8日 (水)
講演者	奥村 佳郎氏 (早稲田大学図書館総務課主任)
テーマ	WebOPACシステムの評価と設計
講義内容	<p>1. INNOPACシステム以前 DOBIS/LIBISを1985年に導入。紀伊國屋書店と和書遡及入力共同事業を1988年開始。事業により作成された和書データをOCLCに送付。</p> <p>2. システム移行 IBM社が2000年問題に対応しないとの表明やwwwへの対応、クライアントサーバ型システムへの転換を目的。</p> <p>3. INNOPACシステム 日本で初めて早稲田大学が導入した。 理由 = OhioLINKなどの大規模ユーザが導入しているため 中国語対応がされていて、日本語対応も可能だと考えられたため</p> <p>(1)日本語化開発 (2)各メニュー ・目録 (和書 JAPAN/MARCベース、洋書 LC MARC) ・発注受入 (書誌データのOPAC表示 非表示) ・逐次刊行物 (チェックイン ボックス、非定期ものへの柔軟な対応) ・蔵書管理 (E-mailを利用した各種通知 督促、予約本返却) ・メンテナンスメニュー (システム状況の把握、OPAC管理、蔵書管理マトクス、ユーザ側での各種設定と確認、リストの作成。リストの利用によるデータ一括更新、標目の一括更新。MARC-IN MARC-OUT。 (3)契約、開発、運用面から ・INNOPACシステムは、完全なパッケージ・プロダクトごとの販売。保守内での年数回のリリースアップがある。 ・やりとりは、メール (時には電話)で行った。英語が堪能なスタッフがいた。Innovative社には日本語を話せるスタッフがいなかった。 ・サーバアクセスによって開発 維持 保守を行っている。 ・ユーザ間の情報交換 (ユーザ会で改善項目を出し合い優先順位投票がされる)。</p>
用語	<p>・INNOPAC :アメリカInnovative社の統合図書館ソフトウェア 中国語文化圏を含む世界約800以上の大学図書館や研究機関で導入。早稲田大学の10倍規模のユーザでの導入実績有り US-MARC、多言語対応、Z39.50機能あり アメリカではベストセラーシステムの一つ。図書館人による理想の図書館システムを構築しようということが原点にある。</p> <p>・DOBIS/LIBIS :IBMのメインフレームで動くシステム。DOBISは、西ドイツ DORTMUND 大学で誕生。LIBISは、ベルギーのLEUVEN大学で生まれ、統合されて世界中に広まった。</p> <p>・Z39.50 :国際規格の情報検索プロトコル。</p>
感想	INNOPACシステムのメンテナンスメニューを実際に講義で見せていただいたのだが、管理がとてもしやすいメニューであると感じた。早稲田大学には優秀なスタッフがいるからこそ、このようなシステムを維持管理できると感じた。
配付物	「WebOPACシステムの評価と設計」